

看護学科

病院の外へ！人々の暮らしに学ぶ看護

看護の学びは病院内だけではなく。地域の人と関わり、日々の暮らしに触れる体験を通じて、看護に欠かせない想像力を育み、看護を実践できる力を養っています。

地域で暮らす人たちと交流し、生活者を支える視点を養う。

地域生活体験実習の目的は「生活の場を知ること」と考えています。近年、医療は病院中心から地域へと大きくシフトし、患者さんは、短期間で退院して地域で生活することが求められるようになりました。看護師の業務も、病院の中だけで完結するのではなく、地域で暮らす人々の実際の姿を理解することが不可欠になっています。

この実習では、学生が地域に赴き子どもから高齢者までさまざまな人と関わります。元気に活動する高齢者や子育てに向き合う保護者の姿など、教科書では分からない暮らしぶりに触れます。岐阜大学がある岐阜市黒野地区の自治会連合会やまち

づくり協議会の皆さんと連携し、文化祭や歴史探訪といった地域のさまざまな行事に参加します。同時に、健康上の問題などで行事に参加できない人たちにも目を向け、目の前にいる一人ひとりの生活者の背景や退院後の暮らしを想像する力を育てています。

退院後の生活に想いを巡らせ、一人ひとりの生活を護る。

1年次には、まず「人・健康・環境」を知ることが目的に、行事に参加しながら地域への理解を深めます。2年次には、1年生にアドバイスをしつつ自らイベントを企画するなど、地域の人たちとより主体的に関わっていきます。脳トレゲームや健康体操といった企画を立案し、会場担当

者と交渉して運営することで、企画力や調整力、リーダーシップといった力も自然と養われます。これらの経験から、入院中のケアだけでなく、「退院後、この人はどんな生活を送るのか」という視点を持てるようになり、4年次の保健師課程の実習やその後の臨床現場へとつなげていきます。

私が目指しているのは、「人を考えてもらえる看護師」を育てること。この地域生活体験実習は、看護のゴールが地域での生活にあると理解する第一歩となるはず。ここで学びを活かし、地域の人々の健康を護るという視点を大切に、地域社会の中で看護の役割を發揮できる看護師を目指してほしいと願っています。

看護のゴールは地域での生活。人を考えて考えられる看護師になってほしいです。



医学部看護学科
高橋 由起子 教授



ひとり暮らしの高齢者の集い



公民館講座



児童館企画



黒野歴史探訪

黒野まちづくり協議会と連携事業し「黒野歴史探訪」に毎年参加。住民と共に歴史的背景を学びながら、地域理解と住民とのコミュニケーションを深める実習を実施。

